

宇久中 学校だより



令和4年3月15日
第26号
佐世保市立宇久中学校
校長 萩山 栄二

●学校教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒」

●教 育 理 念 「磨く」「輝く」「光る」「子どもは『希望』である」

< 卒業おめでとうございます >

■令和4年3月15日（火）第75回佐世保市立宇久中学校卒業式を挙行することができました。卒業生3名の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

また、地域の皆様には日頃から本校の教育活動に対して温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。ただ、新型コロナウイルス感染症対策のため、来賓の皆様のご臨席につきましてはご遠慮させていただきました。関係の皆様のご理解とご協力をいただきましたことに対しまして、感謝申し上げます。



■さて、式辞の内容を、一部抜粋して紹介いたします。

「一つ目は、目標に向かい覚悟を決めて進んでほしいということです。『十里の旅の第一歩 百里の旅の第一歩 三笠山にのぼる第一歩 富士山にのぼる第一歩 同い歩でも覚悟が違う どこまで行くつもりか どこまで登るつもりか 目標が その日その日を支配する』社会教育家、後藤静香（せいこう）さんの詩です。目標によって同い歩でも覚悟が違ってくるといいます。

十五の春を迎えた皆さんに目標はありますか？目標によってその人生や運命は変わります。進む道が決まっていきます。その選択はその人にゆだねられています。だからよくよく考えて、自分の目標はこれだ、進む道はこれだと決めることが求められるのです。そして覚悟を決めてその道を進むのです

この覚悟を決めることによって、歩いていく一歩一歩に力強さがにじみ出てくるのです。くじけそうになっても、つらいときがあっても、自分は目標に向かって進んでいくことができるのだと思います。

半年前、スケートボードで東京オリンピックに出場した平野歩夢選手は、北京オリンピックスノーボード男子ハーフパイプで最高難度の技を決めて優勝しました。インタビューで彼は「一日五十～六十本ひたすら跳んでいた」「猛特訓をした」と言い、「この四年間すべての時間を含め、今日チャレンジを達成した」「小さいころの夢がかなった」と喜びました。そして「新たな道がゼロからスタートする」「今以上の自分になれるよう、成長できるようなチャレンジをしたい」と語っています。

目標を決めて覚悟して進んだ先に見えるものを、ぜひ見てほしいと願っています。

二つ目は、一つ目とも関係しますが、自分の思いを大切にしてほしいということです。

自分の人生を左右するのは、自分自身です。その自分がどのような思いを持っているかが大切だと思うのです。なぜなら、毎日の生活を送る中で抱く「思い」の集積されたものが、私たちの人間性や人柄、人格を作り出すからです。

「自分だけよければいい」という「思い」をずっと巡らせている人は、その「思い」と同じ人間性、人柄、人格になっていきます。逆に思いやりに満ちた優しい「思い」を抱いている人は、知らず知らずのうちに思いやりにあふれた人間性、人柄、人格になっていくのです。

ですから、個人が成長するためには、絶えず自分を律する必要があるのです。日頃から心して良い習慣を養うことは、人として大切なことなのです。そうすることによって、運命は良いものになっていくのです。

ぜひ、目標を達成して美しく輝く姿を見せてほしい。そして常に磨きをかけ宝石のように光り輝く人であってほしいのです。



■学校の様子です。

【3月10日（木）送別行事】



【3月11日（金）立つ鳥運動】



知らないうちに、拡めちゃうから。
STOP!
感染拡大
— COVID-19 —

